

【イベント名】

令和6年度いきいきキャリアアップ事業in大衡村 キャリアを振り返る～地域で活躍する女性たちの物語～

【開催概要】

開催日	時間	場所	参加人数
令和7年2月7日（金）	13:00～16:00	大衡村公民館 第三研修室	16名
主催 宮城県 共催 大衡村			

プログラム

13:00～	開会 主催者挨拶 宮城県環境生活部 大沼 史柄 氏 共催者挨拶 大衡村長 小川 ひろみ 氏 ゲスト紹介
13:10～	第一部「ゲストトーク」
14:10～	質疑応答
14:20～	休憩
14:30～	第二部「ワークショップ」
15:55～	アンケート記入
16:00	閉会

ゲスト

くらしとおやつWindmill

代表 東海林 悦子 氏



（略歴）福島県いわき市生まれ。夫・息子・娘の4人家族。高校卒業後上京し、製菓専門学校に入学。卒業後は神奈川県洋菓子店やホテルでパティシエ、販売スタッフとしてお菓子業界で働き、25歳の時に地元福島県いわき市へ戻る。結婚、出産後は専業主婦をしながら、時々マルシェやイベントでお菓子やハンドメイド雑貨を販売。2015年、夫の仕事のため大衡村に転居。教会のイベントなどでカフェのブースを開いたり、個人的に頼まれてケーキを作ったり、ハンドメイド教室をしたりと、いろいろな出会いやミラクルにより2022年9月に大衡村にて『くらしとおやつWindmill』をオープンしている。

第一部「ゲストトーク」

「くらしと仕事 ～今のわたしだからできること～」

くらしとおやつWindmill 代表 東海林 悦子 氏

「くらしと仕事 ～今のわたしだからできること～」と題し、これまでのキャリア形成や、現在の仕事に対する思いなどについてお話されました。

東海林さんは、東日本大震災後に、クリスチャンであるご夫婦で復興支援活動に関わり、その後、牧師の資格をとることができた大衡村にある大衡村に転居されました。教会のイベントで、カフェのブースやハンドメイド教室などを開催していましたが、父の逝去やコロナ禍による環境の変化を経て、自分のお店を持ちたいと考え始め、小川村長（当時、村議会議員）に相談したところ、偶然にも小川村長のお母様がお店をされていた店舗が空いていることを知りました。その後、多くの方の出会いと協力を得て、お店をオープンすることができたそうです。

パティシエとして働いた経験はありましたが、プロフェッショナルなものを作るパティスリーではなく、日常の暮らしの中で、口にしてもらえる身近なおやつをつくりたいと考え、お店の名前は「くらしとおやつWindmill」としました。

お店をオープンしてから、地元で様々な生産者との出会いがあり、自分自身がおいしいと感じ、安心して食べられるお菓子を作ることができています。

東海林さんには、毎日の生活を送るうえで大切にしている7つのルールがあります。

＜7つのルール＞

1. くらしと仕事を切り離さない、2. 自分をまるごと受け止める、3. お客さまも私も心地よく、4. 恵みを数える、5. 目の前に来た波は乗っける、6. 歌いつつ折りつつ、7. Faith&Hope&Love

この7つのルールを常に意識することが、人生を豊かにすることに繋がっているそうです。

「いいことも悪いことも色々あって歩いてきて、たくさんの仲間に出会い、助け合うことができたので、これからも、風車のように風を受けて良いものを作り出していきたい」と、お話いただきました。



第二部「ワークショップ」

テーマ：キャリアについて考える ファシリテーター：株式会社cue 代表取締役 浅利 賀名衣 氏

グループでワークシートを使用しながら、「これまでの棚卸」、「これからのキャリア」を考えるワークを実施。自己紹介後、「これまでの棚卸」（何歳くらい・その時の仕事や家事、町内会の活動などの経験・その経験から得た知識や能力）をワークシートに記入し、自分自身を振り返りました。

記入した内容について一人ひとり発表し、グループの方から共感や長所のフィードバックを受けました。

その後、「これからのキャリアを考えるワーク」（ありたい姿になるための目標の設定：いつまでに何を始めるか）を具体的に記入し、前半と同じように発表・フィードバックを行い、それぞれが気づいたことを記入しました。

多くの方が初対面でしたが、積極的に意見を交わしている様子が見られました。

（感想）※アンケートより抜粋

・自分のことを知らない、ということに気づきました。

・人の数だけその人の人生があって、みんな違うんだなと感じたことと、自分のこれまでの人生の棚卸やこれからのキャリアについて考えて、グループの方にフィードバックをもらったことが印象に残りました。普段の生活の中で、このように振り返ったり見つめ直したりする機会は、意識しないとなかなか持てないことですし、自分はこうなんだということを発表してフィードバックをもらうこともないので、とても貴重な機会をいただきました。折に触れて、また棚卸やキャリアの見つめ直しをしたいと思います。

